

# 南米[ブラジル]



## 1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の最新の農牧センサス(2006年)によると、ブラジルの農業経営体520万戸の所有面積は3億5490万ヘクタールで、このうち農耕地が7670万ヘクタール、牧草が1億7230万ヘクタールとなる(表1)。2012/13年度(10月~翌9月)には農耕地の70%に当たる5356万ヘクタールが穀物生産に向けられた結果、穀物生産量は1億8866万トン(前年比13.5%増)となった。

畜産分野では、2012年の牛肉生産量は、米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ3位となった。また、豚肉生産量は米国、EU(27カ国)、カナダに続いて世界4位を記録した。輸出量は牛肉、鶏肉は世界第1位、豚肉は4位となった。

2012年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、国際金融危機の影響から回復したことに加え、年間を通じてドル高レアル安で推移したことで輸出に好条件となり、958億ドル(同0.9%増)と過去最高を記録した。同年の農産物輸入額を差し引いた貿易黒字は794億ドルとなり、農業部門が国の対外収支に重要な役割を果たしている。

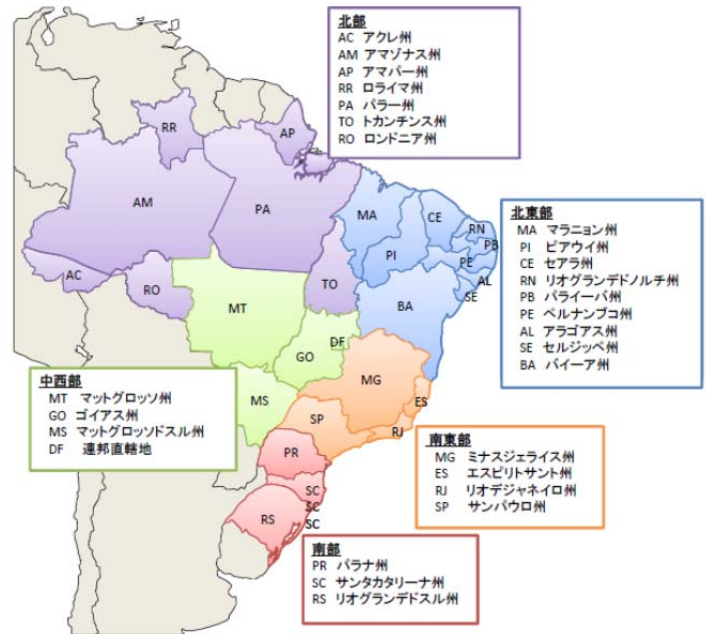
## 2 畜産の動向

### (1)肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、1億7230万ヘクタールの牧草地を利用した放牧肥育が中心で、耐暑性に優れたインド原産のゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。

2008年に米国で端を発した国際金融危機以降、ブラジルの大手パッカーの一部では、買収、合併による事業拡大を通じた経営の合理化を図る動きが見られた。ブラジル第2位の牛肉パッカーのMARFRIG社が2010年6月、米国の大手食品会社KEYSTONE FOODS社を買収した

図1 ブラジルの地図(行政区別)



資料: 機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料: IBGE(ブラジル地理統計院)

ことにより、ファストフード部門へ進出したのがその一例である。

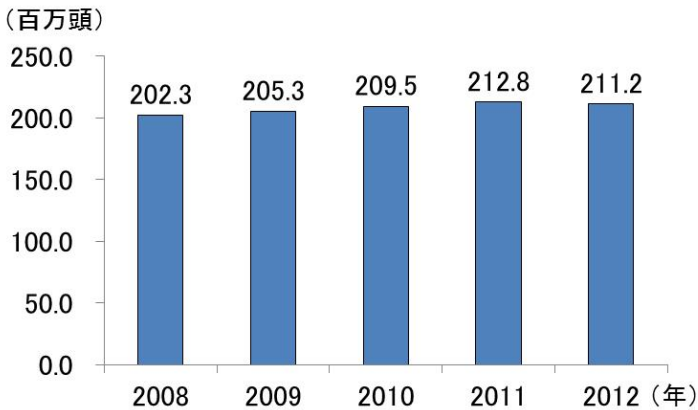
ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んでおり、その結果、多くの地域がワクチン接種清浄地域となった。2007年には、南部のサンタカタリーナ州が、同国初の口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを取得した。

また、国としてのBSEの清浄性は、「管理されたリスク」と評価されている。

① 飼養動向

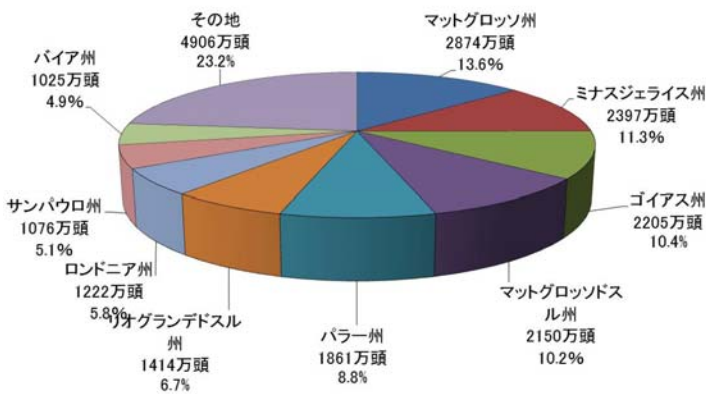
2012年の牛飼養頭数は、2億1128万頭(前年比0.7%減)となった(図2)。州別でみると、前年に引き続きマットグロッソ州が2874万頭で最も多く、全国の13.6%を占めた。次いでミナスジェライス州の2397万頭、ゴイアス州2205万頭、マットグロッソドスル州2150万頭が続いており、これら上位4州で全体の45.3%を占めた(図3)。

図2 牛飼養頭数の推移



資料:ブラジル地理統計院(IBGE)

図3 州別牛飼養頭数



資料:ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)

② 牛肉の需給動向

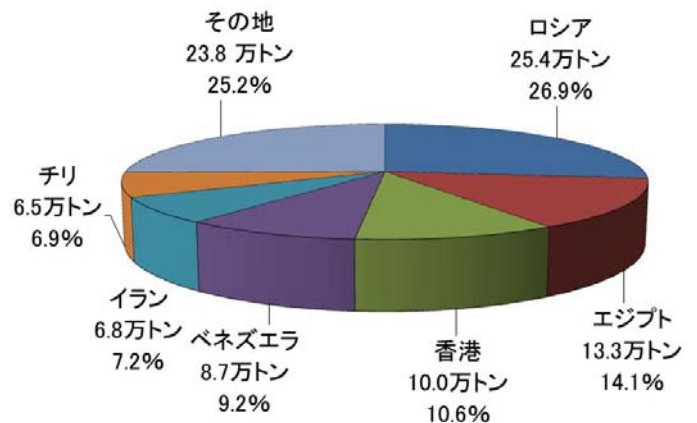
ア 生産

2012年のと畜頭数は、3112万頭(前年比8.0%増)、牛肉生産量は875万1700トン(同3.6%増、枝肉重量ベース)と2010年並みの水準まで回復した(表2)。飼料穀物価格の高騰により、配合飼料を多用する豚肉や鶏肉の価格が上昇する中で、牧草肥育が主体である牛肉に相対的に割安感があり、国内需要が旺盛だったことに加え、好調な牛肉輸出が後押しした結果とみられる。

イ 輸出

2012年の牛肉輸出量は、168万4000トン(前年比12.7%増)であった。このうち、冷蔵は、2011年9月のパラグアイでの口蹄疫発生により、同国産牛肉の輸出が停止したことをきっかけに、チリなどがブラジル産に切り替えたため、12万5465トン(同41.1%増)となった。また、冷凍も、主要輸出先のロシアが、2011年初め以来の衛生問題を理由とした禁輸措置を部分的に解除したことにより、82万18トン(同12.1%増)となった(図4)。

図4 牛肉(冷凍、冷蔵)の輸出先国(2012年)



資料:SECEX

注:製品重量ベース

ウ 消費

2012年の国内消費量は、712万7500トン(前年比1.8%増)とされ、1人当たり年間消費量は、36.0キログラム(同1.4%増)となった(表2)。前述のとおり、牛肉が他の食肉と比べて相対的に割安感があったことから、牛肉消費量は増加に転じた。

表2 牛肉需給の推移

(単位:千トン、kg)

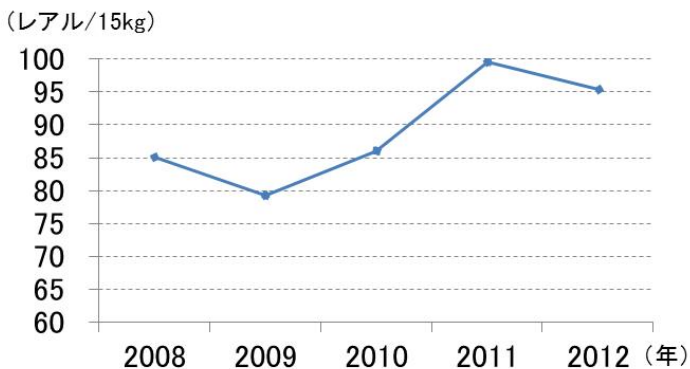
	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	8,839	8,474	8,783	8,448	8,752
輸入量	30	41	41	45	60
輸出量	1,919	1,767	1,702	1,495	1,684
1人当たりの消費量	36.6	34.9	36.4	35.5	36.0

資料:IBGE  
注:枝肉重量ベース

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム単位(アローバ)で示される。2012年の肥育牛の年間平均価格(サンパウロ州)は、1アローバ(15キログラム)当たり95.3リアル(前年比4.2%安)であった(図5)。卸売価格(同州)は、枝肉1キログラム当たり7.75リアル(同0.3%安)となった。牛肉小売価格は、前年から若干下落した。

図5 肥育牛の生産者販売価格の推移(サンパウロ州)



資料:CONAB

(2) 養鶏・鶏肉産業

2012年の鶏肉生産量は、国際金融危機の影響が緩和して内外からの需要は堅調となったものの、前年からわずかに減少した。

なお、国内1位の鶏肉パッカー、ペルジゴン社と第2位のサジア社の合併後の新会社ブラジルフーズ(BRF)社については、国内市場独占禁止監督機関(CADE)から2011年7月、寡占化を防ぐ策として、BRF社への一部資産の売却等を条件に、正式に承認され、国内鶏肉生産量の3割以上、輸出量は5割以上のシェアを持つなど、同国の鶏肉産業を大きくけん引している。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

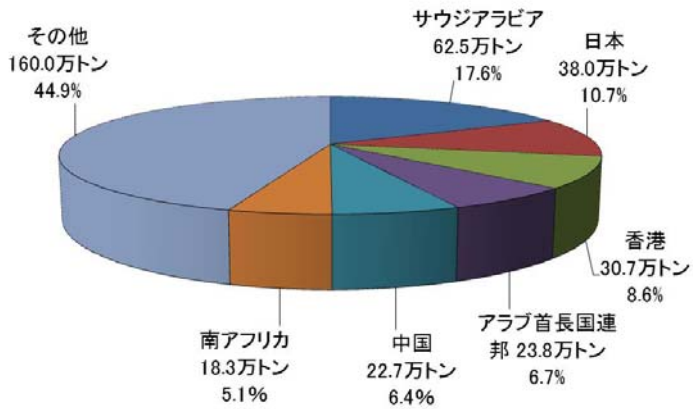
2012年のブロイラー用ひなふ化羽数は、飼料穀物価格高に伴う生産コストの上昇を受け、鶏肉販売価格が上昇し、国内需要が減少したことから、59億9900万羽(前年比3.8%減)となり、1カ月当たりのふ化羽数は約5億58万羽となった。また、鶏肉生産量は、1264万5100トン(同1.7%減)となった。

イ 輸出

2012年の鶏肉輸出量(調製品を含む)は、生産量が減少したものの、主要輸出国からの需要が堅調であったことを受け、392万トン(同0.6%減)と、わずかな減少にとどまった。生鮮鶏肉の輸出量の内訳をみると、部分肉が全体の60.2%、丸どりが39.8%となっており、輸出先国は、サウジアラビア向けが全体の17.6%、次いで日本向けが10.7%、香港向けが8.6%となった(図6)。第5位の中国向けの輸出量は、前年から7万4000トン程度増加し、全体の6.4%を占めるまでに拡大した。

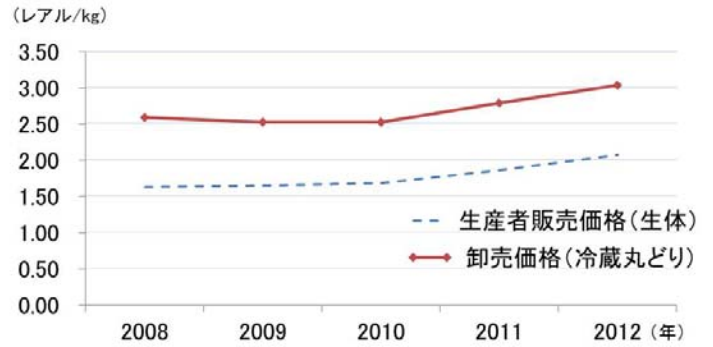
輸出額(調製品を含む)は、為替相場がドル高・リアル安傾向で推移したものの、67億3238万ドル(同4.7%減)と、減少に転じた。

図6 生鮮鶏肉の輸出先国(2012年)



資料:SECEX

図7 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



資料:CONAB

## ウ 消費

2012年の1人当たり年間鶏肉消費量は、43.8キログラム(同3.1%増)となった。

## ② ブロイラーの価格動向

### ア 生産者販売価格

2012年の生産者販売価格(サンパウロ州)は、1キログラム当たり2.08リアル(前年比11.2%高)となった(図7)。国際的な穀物相場の上昇を受け、国内市場に供給される飼料穀物の価格も上昇し、人件費も引き続き上昇していることから、生産コストはかなり大きく上昇した。これを受け、生産者販売価格も上昇した。

### イ 卸売価格

2012年の卸売価格(サンパウロ州)は、同3.03リアル(同8.6%高)となった(図7)。

### 3 飼料穀物

ブラジルの2012/13年度のトウモロコシの生産量は世界第3位、輸出量は同1位であった。輸出量は、前年度の4位から大きく順位を上げ、干ばつの影響で大幅な減産に見舞われた米国を抜いて、世界最大を記録した。なお、ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作(第1期作)と冬作(第2期作)の年2回行われ、同年度の第1期作はパラナ州(南部)、第2期作はマットグロッソ州(中西部)が最大の生産地となった。パラナ州をはじめとした伝統的に生産が盛んな南部3州(ウルグアイ国境部)は、2012/13年度(10月～翌9月)に同国で生産されたトウモロコシ(8150万トン)のうち、32.4%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部3州(マットグロッソ州、マトグロッソドスル州、ゴイアス州)は、同43.4%を占めた。

#### ① 主要政策

2012/13年度(農期2012年7月1日～2013年6月30日)は、農務省(MAPA)が管轄する農業部門に対し、過去最大規模となる1153億リアル(前年度比7.6%増)が予算措置された(表3)。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や地域生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表3 2012/13年度の農業部門予算内

(単位:億リアル)

農業年度	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13
総予算額	650	925	1,000	1,072	1,153
営農・販売融資	548	662	756	802	870
投資融資	102	263	244	270	283

資料: MAPA

営農・販売融資については、869億5千リアル(同8.4%増)が予算措置され、このうち705億5千万リアルは政府が利息(年利5.5%)を管理する資金、残りの164億リアルが市中金利での融資枠となった。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としており、今年度の融資限度額は1農家当たり前年度の65万リアルから80万リアルに、また、連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる販売融資に係

る融資限度額は同130万リアルから160万リアルにそれぞれ引き上げられた。

2012/13年度は特別に養豚部門における生産コストの上昇等を考慮し、養豚生産者に対し、繁殖用雌豚保留のために1農家当たり120万リアル、償還期間2年間とした融資枠が創設された。さらに、前年度に開始された肉牛生産者に対する繁殖雌牛の購入に係る融資も継続し、利息を前年度より引き下げ、年利5.5%とした。

また、再生産を確保するための農畜産物の最低保証価格は、市場価格が比較的安定している一部の作物(綿、米、落花生、フェイジョン、南東、南部およびマットグロッソを除く中西部のトウモロコシおよび大豆)については、おおむね前年度と同額となっている。なお、南部地方およびマットグロッソドスル州では、家畜用飼料の確保を目的に乾燥に強いソルガムの生産を奨励するため、その最低保証価格の引き上げを行った。

投資融資については283億リアル(同4.8%増)の予算が措置された。同予算において、温室効果ガスの削減を図り、持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム(ABC)と中規模農業者支援国家プログラム(PRONAMP)が重要課題として継続される。

今回公表された2012/13年度の農業プランに対し、関係団体は発表された融資額が農業部門の要求を下回るものの十分な量として受け止めており、プランを支持する声が多くを占めている。一方で、融資量の増加や利息の引き下げ以上に重要なことは、生産者の資産を保護する政策モデルであるという意見や、生産者が債務を負うため、融資の利用が阻まれているという現状を訴える声、さらに、農業開発と環境規制との間に生じる問題の解決を求める声もある。

## ② 飼料穀物の需給動向

2012/13年度(10月～翌9月)のトウモロコシ生産量は、8151万トン(前年度比11.7%増)と過去最高を記録した(表4)。同年度第1期作トウモロコシ生産量は、平年並みの天候で、南部を中心に干ばつ被害に見舞われた前年から単収が回復し、3458万トンとなった。

第2期作のトウモロコシ生産量は、主な生産地である中部から南部の州において、2月の多雨により作付けに若干の遅れが見られた。その後、天候は回復し、すべての地域で作付面積の増加が見られた。収穫期に入った現在、中部・南部地方では、特にマットグロッソ州、マットグロッソドスル州およびゴイアス州の貯蔵施設の不足と市場価格の低下から、生産者は、作物を収穫せずに畑に残しておく方法を選択したため、収穫が遅れ、特に中西部を中心に単収が落ち込んだものの、過去最高の4693万トンを記録した。

これにより、総生産量に占める第2期作の割合は、前年度に続き、57.6%を占めた。

輸出量は、北米が干ばつにより減産となったことに加え、主に輸出に仕向けられる第2期作の生産量が好調であったことを受け、世界最大となり、2617万トン(同17.3%増)となった。国内へは5350万トンが供給され、860万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

2012/13年度の大豆の生産量は、8150万トン(同22.8%増)を記録した(表5)。大豆の国内外の価格が好調であることや、世界的な需要の高まりなどから、作付面積が2774万ヘクタール(同10.8%増)となった。最大の大豆生産州であるマットグロッソ州では、アジア型大豆サビ病の発生や収穫時の降雨によって、単収が前年を下回った。一方、前年の干ばつによる影響から回復したパラナ州やリオグランデスル州は、単収がそれぞれ回復した。なお、輸出量は、4279万トン(同31.8%増)で、国内市場では3852万トンが消費された。また、期末在庫は81万トンとなった。

表4 トウモロコシの需給表

(単位:千トン)

区分/年度	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13
期首在庫	7,676	7,113	5,589	5,963	5,514
生産量	51,004	56,018	57,407	72,980	81,506
輸入量	1,182	392	764	774	911
消費量	45,414	46,968	48,486	51,889	53,160
輸出量	7,334	10,966	9,312	22,314	26,174
期末在庫	7,113	5,589	5,963	5,514	8,598

資料: CONAB

表5 大豆の需給表

(単位:千トン)

区分/年度	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13
期首在庫	4,540	674	2,607	3,017	344
生産量	57,162	68,688	75,324	66,383	81,499
輸入量	99	118	41	167	283
消費量	32,564	37,800	41,970	36,754	38,524
輸出量	28,563	29,073	32,986	32,468	42,792
期末在庫	674	2,607	3,017	344	810

資料: CONAB

## ③ 飼料穀物の価格動向

2012年におけるトウモロコシ価格(サンパウロ州)は、60キログラム当たり26.03リアル(前年度比1.1%安)となった(表6)。

大豆価格については、2012年では、同58.8リアル(同37.1%高)となった(表7)。

表6 トウモロコシ価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産者販売価格	22.42	18.11	17.7	26.33	26.03

資料: CONAB

表7 大豆価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産者販売価格	43.7	45.6	37.3	42.9	58.8

資料: CONAB